

第42回（2025年度）助成者一覧表

【 研究助成 】

部門	No	氏名	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマ	研究テーマの概略・手段・目的等	成果をおさめる時期
工 学	1	夏原 大悟	名古屋大学大学院 工学研究科物質プロセス工学専攻 特任助教	マイクロナノデバイス、パイ オセンシング	マイクロミキサ実装エンドポイント型遺伝子検査デバイ スの開発	迅速かつ定量的な遺伝子診断を実現するエンドポイント型デバイスを開発する。連続流入で複数反応時間を同時に計測し、マイクロミ キサで遺伝子増幅反応を促進。これにより、LAMP反応における溶液攪拌の影響を解明し、ライフサイエンスに新知見をもたらす。ポスト コロナ時代の迅速かつ安心・安全な遺伝子診断技術創出に貢献する。	2027年度
	2	島添 和樹	名古屋工業大学大学院 工学研究科工学専攻 電気電子プログラム 助教	電子材料工学	ルチル構造酸化ゲルマニウムバルク基板からアプロー チする超低損失パワーデバイスの創成	Si、GaN、SiCを超える絶縁破壊電界を持つルチル構造酸化ゲルマニウム（r-GeO2）に着目し、超低損失パワーデバイスの創成を目指す 。これまで行われてきたバルク単結晶育成と薄膜成長を一貫して行い、r-GeO2バルク基板上へのホモエピタキシャル成長を 実現する。フラックス法でバルク単結晶を育成し、ミストCVDで低キャリア密度のホモエピタキシャル薄膜を成長。n型基板上に縦型 ショットキーバリアダイオードを試作し、従来のデバイスと比較することで、r-GeO2の優位性を実証。r-GeO2の半導体物性解明と、次 世代低損失デバイス開発に大きく貢献する。	2027年12月
	3	田中 裕士	名古屋工業大学大学院 工学研究科工学専攻 電気電子プログラム 助教	電波工学、信号処理	長期間の生体情報モニタリング実現に向けたレーダ信 号処理手法の開発	ミリ波・テラヘルツ波レーダシステムから生体情報を正確に計測するための信号処理手法を開発する。アレーアンテナを用い、電波伝 搬モデルや生体運動の知見を統合することで、ノイズに強く高電力な反射波の受信と計測対象の位置推定精度向上を図る。シミュ レーションと実験を通じて手法を評価・改良し、呼吸数や心拍数などの生体パラメータを低誤差で推定可能になり、通信技術や予防医 療の発展に貢献することを目指す。	2027年末
	4	戸塚 圭亮	名古屋工業大学大学院 工学研究科工学専攻 機械工学プログラム 助教	知能機械学・機械システム	触力覚インタラクションを可能とするバーチャルペットロ ボットの基盤システム開発	触力覚提示装置を介して、現実には存在しないVペットと直接インタラクションできるシステムを構築する。Vペットは現実世界の制約を 受けない造形やシミュレーション（繁殖・疾病など）が可能であり、将来的には育成教育への応用が期待される。本研究では、実在の筐 体を持つペットロボットと同等以上の実在感を付与する触力覚技術に着目し、機械的性能の評価および柔軟な造形を実現するアルゴ リズムの検証を行う。	2027年
	5	岩田 隆弘	愛知工業大学 工学部社会基盤学科 助教	耐震工学、振動工学、コンク リート工学	ASRと外力損傷の連成劣化に着目したRC橋脚の耐震 性能評価と非破壊診断技術の構築	RC橋脚におけるASR劣化と地震力による複合損傷に着目し、構造健全性の非破壊評価技術を構築する。静的載荷実験と有限要素解 析により、ASR劣化が耐震性能に与える影響を定量的に解明。また、振動特性（固有振動数・減衰定数・モード形状）の変化をロービ ングハンマー試験とモーダル解析で分析し、劣化度合いを診断する指標を確立する。これらの知見に基づき、現場適用可能な簡易診 断技術の基盤を築き、老朽化インフラの維持管理合理化に貢献することを目指す。	2027年
	6	小川 登志男	愛知工業大学 工学部機械学科 准教授	材料工学	再結晶の徹底追及による鉄鋼材料の高強度・高延性化	鉄鋼材料の再結晶を適切に制御することで、結晶粒の等軸化・微細化と軟硬質相の硬度均一化を同時に実現し、複相組織鋼の低合 金化と高強度・高延性化の両立を目指す。熱間圧延後の冷却パターンと焼きなまし条件を最適化し、最も微細で等軸化した試料の引 張特性を評価する。この研究により、レアメタル使用量の削減、車体軽量化によるCO2排出量低減が期待され、カーボンニュートラル 社会の実現が期待される。	2026年12月
	7	小久保 佳亮	愛知工業大学 工学部応用化学学科 助教	錯体化学、生物無機化学	高原子価金属イオンを持つ窒素錯体よる低環境負荷型 選択的ヒドラジン合成触媒の開発	既存の常温常圧下アンモニア合成研究において副生成物として得られがちなヒドラジンに焦点を当て、選択的なヒドラジン合成が可能 な新規窒素錯体の開発を目指す。高原子価のクロム(Ⅵ)イオンと嵩高いトリアミドアミン配位子を用い、錯体の同定、反応条件の最適 化、触媒耐久性の向上を図る。これにより、安価で低環境負荷なヒドラジン合成を実現し、窒素固定における生成物の反応制御技術 の確立を目指し、将来的には、貴金属に依存しない貧金属を用いた合成や、窒素錯体からの直接的な窒素含有化合物合成への道を 開き、窒素固定法の可能性を大きく広げることが期待される。	2025年度中
	8	増田 顕	名城大学 理工学部 特任助手	建築構造	継続使用性に優れた中高層木質建物における柱脚支 持部の設計法	CLTパネル工法建物におけるCLTロッキング壁柱のめり込み抑制を目指し、補強柱脚支持部の開発と設計者が利用しやすい設計法 の提案を目的とする。強制変形実験で補強部の力学的挙動を検証後、要素実験に基づき構造性能評価式を構築。この評価式を用い たパラメトリックスタディーにより、損傷と変形を関連付けた性能設計へ拡大可能な設計法を提案する。中高層木質建物の性能維持に 貢献し、カーボンニュートラル実現や新たな市場創出に繋がる学術的・実用性が高いと考える。	2027年3月
	9	宮内 俊幸	中部大学 工学部応用化学学科 准教授	分析化学	植物由来バイオマスを基体とする抗菌剤の合成とその 材料化に関する研究	石油資源に代わるバイオマスを基盤とし、新規機能を持つ化学材料の開発を目指す。バイオマスの複雑な炭素骨格と高次構造を活か し、官能基導入、物質吸着能、親水性などの機能付加を図る。木質系・草本系バイオマスを化学処理し、耐水性向上と臭い除去を行う とともに、銀イオンを吸着させて抗菌効果を有する材料を開発。吸着機構の解明により、吸着量や脱離の制御も可能にする。建築資材 や自動車内装部品などへの応用を通じて、あらゆるシーンでの活用が期待される。	2026年度
	10	稲垣 圭一郎	中部大学 理工学部AIロボティクス学科 教授	脳計測科学、人間工学、認 知科学	運転における経験に基づくヒト予測機構が伴う認知を実 現する脳神経機構の解明	経験や警告刺激が誘発する予測が運転時の認知と注意を最適化するという仮説を、CNV（予測）とP300（注意）という二つの脳波を用 いて検証する。具体的には、脳計測を伴う運転実験と高度な信号処理解析を融合させ、予測が絡む運転時のCNVとP300応答を評価。 さらに、これらの脳波を励起する脳神経回路の機能的結合ネットワークを同定することで、ヒトの予測的認知を実現する脳メカニズムを 解明する。交通事故低減やヒト脳情報処理型AI開発への応用が期待できる。	1~2年程度
	11	荒川 優樹	豊橋技術科学大学大学院 工学研究科応用化学・生命工学系 准教授	液晶科学、有機化学、高分 子化学	ヘテロ元素を利用した強誘電ネマチック液晶分子の開 発	硫黄・窒素・酸素などのヘテロ元素とそのπ共役系環構造（チオフェン、フランなど）を利用した新規分子群を合成し、その光学物性を 評価することで、新しいNF液晶材料の基盤構築を目指す。分子構造解析、相転移挙動、光学特性評価、相構造特定を自研究室で行 い、さらに中国・華南理工大学との電気・電子特性評価、英国・リーズ大学との理論計算を国際共同研究で進める。NF液晶の光学特 性向上やスイッチング速度向上、駆動電圧低下に貢献し、液晶材料メーカーとの共同開発も期待される。	3年以内
	12	石川 耕雪	豊橋技術科学大学大学院 工学研究科機械工学専攻 博士後期課程2年	制御工学、ソフトロボティク ス	イオン導電性高分子センサを用いた手指運動の計測と 柔軟物体把持のためのロボットハンドテレマニピュレー ション	イオン導電性高分子センサで手指運動を計測し、それに追従して動作するロボットハンドテレマニピュレーション技術を開発する。カル マンフィルタで高精度な手指運動計測を目指し、市販の5本指ロボットハンドを制御。柔軟物体の把持にはインピーダンス制御を適用 し、操作者の力加減を反映させる。災害現場や医療・介護分野などでの遠隔操作技術の日常化、およびロボットによる繊細な作業の 自動化に貢献し、人とロボットの共生社会の基盤を確立する。	2027年3月

【 研 究 助 成 】

部門	No	氏名	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマ	研究テーマの概略・手段・目的等	成果をおさめる時期
工 学	13	西村 良太	豊橋技術科学大学大学院 工学研究科情報・知能工学系 准教授	情報工学	超低消費電力スマートホーム制御のための雑音・無音 耐性を持つVADレスリアルタイム音声認識システムの 開発	VADレス音声認識技術を開発し、雑音・無音環境でも高精度に動作するスマートホーム制御の基盤を確立する。深層学習モデルを ベースに、大規模データ学習やモデル圧縮技術を適用し、リアルタイム処理と低消費電力性を両立。Raspberry Pi等でプロトタイプを構 築し、多様な環境下での評価・改良を行う。高齢者や障害者を含むすべての人々にとって使いやすく、エネルギー効率の高い生活環 境を実現し、広範な分野への応用を目指す。	2027年3月
	14	北村 嗣音	愛知県立大学大学院 情報科学研究科情報科学専攻 博士後期課程1年	量子情報理論	デジタル光量子通信における量子通信路容量特性の解 明	デジタル光量子通信の実用化を目指し、量子通信路容量を連続系に近づけるデジタル量子信号の特性を明らかにする。信号数の増 大に伴う解析困難性を克服するため、計算量の削減を図り、最適な信号点配置と生起確率を導出する。エネルギー制約付き問題に対 応した長岡アルゴリズムの拡張や、並列計算環境を活用し、数千～数万次元の大規模信号空間での容量解析を行う。量子通信の理 論的限界を深く理解し、実用的な量子通信方式の設計指針に貢献する。	2年間
	15	山崎 陽一	愛知県立大学 情報科学部情報科学科 准教授	感性工学, 生体医工学	空間が提供する感性価値の形成過程における多感覚 情報の統合様式モデリングに関する研究	視覚・聴覚・温熱感覚といった空間が提供する多感覚情報が、快・不快、安心感、没入感などの感性価値を形成するメカニズムを解明 する。浴室環境を対象に、HMDや音響シミュレーション、足浴を用いて感覚刺激を提示し、主観評価と脳波・心拍変動などの心理・生理 指標を計測。これらのデータを分析し、多感覚情報の統合様式を数理モデリングすることで、空間と感性の関係を深く理解できる。人 間中心の環境設計や感性のデジタルツイン実現に貢献し、Society 5.0の理念にも深く接続している。	2027年12月
医 学	16	大原 悠紀	名古屋大学高等研究院/大学院 医学系研究科 YLC特任助教	環境医学・毒性病理学・植 物学(融合領域)	マイクロ・ナノプラスチックの人体への影響の解明と食 用植物を活用した介入法の探索	マイクロ・ナノプラスチック(MNPs) が人体に与える影響を医学・食品科学・材料工学の観点から多角的に検討し、リスク評価と予防的 介入の基盤構築を目指す。具体的には、MNPsががん細胞機能や脳発達に及ぼす直接的影響を解明し、プラスチックの種類による安 全性を比較する。また、マイクロバイオームを介した間接的影響(がん・精神発達リスク)を解析する。さらに、消化管内でMNPs吸収を 抑制する植物由来物質を探索し、予防的介入の可能性を検討することで、公衆衛生保護と健康リスク軽減、安全なプラスチック素材の 選定指針の策定に貢献する。	2〜3年
	17	川瀬 治哉	名古屋大学 医学部附属病院 病院助教	医学(循環器学)	血管内皮における非定型ケモカインシグナルを応用した 虚血性心疾患の新規治療法の開発	ケモカインが誘導する血管内皮の非定型ケモカイン受容体シグナルが、虚血性心疾患の病態にどう関わるかを明らかにする。ACKR5 ノックアウトマウスを用いた機能解析で心保護作用の分子基盤を解明し、さらに抗ACKR5ナノボディの有効性を評価することで、治療 応用の可能性を探る。心筋梗塞後の心機能低下抑制や心不全予防に資する新規治療法の確立に繋がり、他の血管・炎症性疾患へ の応用も期待される。ドイツとの国際共同研究体制で実施する。	2027年12月
	18	近藤 裕史	名古屋大学大学院 医学系研究科 分子細胞化学・糖鎖生命コア研究所 講師	医学、血液学、生化学	Bump and hole仮説に基づく酵素多量体構造異常による 新規ヒト遺伝子病の証明	マウスでは致死性的ながら患者では血小板異常のみを示す例外的なGNE変異に着目し、その致死回避メカニズムを解明する。「凸凹仮 説」に基づき、2つの完全活性欠失変異GNEが相互補完的に機能回復することで致死を回避しているかを検証。患者と同一遺伝子型 マウス作製、変異GNEの安定性・多量体形成解析、プロテアソーム阻害剤による致死回避検証を行う。また、空間的遺伝子発現解析 でシアル酸合成能力と組織機能の関連を同定。新規遺伝子病の分子機序解明とGNE関連疾患の治療法開発の糸口となる。	2026年8月
	19	松井 未来	名古屋市立大学大学院 医学研究科 大学院生	免疫薬理学	ミエロイド由来抑制細胞の免疫抑制性アミノ酸代謝物産 生および抗がん剤耐性獲得におけるイオンチャネルの 役割	がん微小環境のミエロイド由来抑制細胞(MDSC) に着目し、イオンチャネル(特にカリウムチャネル) がその免疫抑制機能とがん悪性 化因子産生に与える病態的役割を解明する。各種解析を通じ、イオンチャネルを標的としたがん免疫賦活薬の創出を目指し、がんの 悪性化や抗がん剤耐性克服に貢献する、独創的ながん免疫療法新戦略を拓く。自己免疫疾患、アトピー性疾患、新型コロナウイルス 感染症の研究分野にも貢献できる可能性がある。	2027年
	20	中森 裕之	名古屋市立大学大学院 医学研究科細胞生理学分野 助教	消化管生理学	炎症を感知する腸内分泌L細胞を介した近位結腸運動 制御機構の解明	ラット近位結腸のL細胞が腸内細菌関連物質(LPS、短鎖脂肪酸、二次胆汁酸)を感知し、GLP-1を介して蠕動運動を促進するメカニズ ムを解明する。この蠕動促進が下痢を引き起こし、腸内環境を維持する生理機能であると仮説を立て、IBD(炎症性腸疾患)における下 痢が炎症サイトカインを感知したL細胞に起因するのかを検証。DREADD遺伝子改変ラットを用いた直接的検証と、その成果が消化管 運動障害の新たな治療標的となり、臨床応用へ繋がることを期待する。	2028年3月
	21	川瀬 恒哉	名古屋市立大学大学院 医学研究科新生児・小児医学分野 助教	生命科学、神経科学、小児 医学	早産によるニューロン新生低下が引き起こす脳機能障 害 -最先端オミクス解析による包括的病態解明-	早産による生後のニューロン新生低下が、生涯にわたる脳機能変化と神経・精神疾患の発症にどう関わるかを明らかにする。早産マ ウスとヒト早産児・患者剖検脳のシングルセル/核遺伝子発現解析で、ニューロンの遺伝子発現変動を追跡。さらに、Perturb-seqを用 いて遺伝的リスク因子と早産の相互作用をin vitro/in vivoモデルで検証する。早産による脳機能異常の分子・細胞・機能的メカニズム を包括的に解明し、神経・精神疾患の成因理解と新規治療法開発に貢献することを目指す。	2029年
	22	鈴木 孝典	名古屋市立大学病院 医学研究科消化器・代謝内科学 病院助教	肝疾患	プロテオーム解析を用いた切除不能肝細胞癌に対する がん免疫療法に関わるバイオマーカーの探索	がん免疫療法患者の血清EVs中のタンパク質とmiRNAに着目し、治療効果を予測するバイオマーカーの同定を目指す。プロテオーム 解析とRNA-seq、qPCRで候補因子を抽出し、既存のサイトカイン・ケモカインデータと統合して腫瘍免疫応答機構を解明する。この成 果により、個別化医療の発展や、治療効果を高める新規創薬開発への貢献が期待される。	2026年3月
	23	EKA RAHMAWATI WAHYUNINGS IH	名古屋市立大学大学院 医学研究科視覚科学分野 大学院生	眼科学	網膜色素上皮三次元球体培養系を用いたβセクレター ゼ(BACE2)によるアミロイドβ産生とリポタンパク質生合 成の関連と加齢変化の影響の探索:加齢黄斑変性病態 解明	加齢黄斑変性(AMD) の病態解明を目指し、RPE細胞の3次元球体培養とリポフスチン模擬微粒子で加齢変化を再現する。BACE2阻 害剤投与後のC3、Aβ、ApoB-100、ApoE発現量を測定し、APPからAβ産生とリポタンパク質生合成の関連性を考察。SASP(老化関 連分泌現象)の関与とBACE2活性の影響を評価する。AMDにおけるドルーゼンの形成メカニズムを解明し、炎症反応と脂質代謝調節 におけるBACE2の新たな機能や、AMD発症への関与に関する知見を提供する。	2027年
	24	杉山 洋介	名古屋市立大学大学院 医学研究科臨床薬理学分野 研究員	臨床薬理学	がん悪液質の前兆把握を目指した体成分分析による予 測モデルの構築	体成分・臨床・分子生物学データを統合した大規模データベースを構築し、がん悪液質の発症から増悪までの病態を可視化する。機 械学習を用いてデータベースを解析し、病態変化と各データの関連性を明らかにする。また、化学療法の効果とがん悪液質の関連も 解析。将来的には、これらのデータに基づき最適な介入時期を同定する評価アルゴリズムを構築し、がん患者のQOL向上と予後改善 を目指す新規治療戦略の開発に貢献する。	2027年度末

【 研究助成 】

部門	No	氏名	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマ	研究テーマの概略・手段・目的等	成果をおさめる時期
医学	25	玉置 優貴	愛知医科大学 医学部解剖学講座 助教	医学	急性肝障害マウスへの肝細胞移植後の経時的な治療効果と機序の解明	肝細胞移植によって肝機能が回復するメカニズムを解明し、治療の普及を目指す。急性肝障害マウスへ肝細胞を移植し、IVISで生着・増殖を非侵襲的に観察。同時に肝機能との関係を追跡する。肝臓組織中の炎症マーカー、増殖因子、細胞周期関連遺伝子の発現解析、および移植細胞由来のエクソソーム・サイトカイン解析を通じて、生着に依存しない肝機能回復因子を特定。新たな肝疾患治療戦略の確立に貢献する。	2027年3月頃
	26	丸山 健太	愛知医科大学 医学部薬理学講座 教授	医学	感覚腎臓病態学の創成と応用	痛覚神経由来の神経ペプチドが慢性腎臓病（CKD）の病態にどのように関わるか、「神経ペプチド病因仮説」の蓋然性を検証する。Nav1.8陽性C線維欠損マウスや遺伝子改変マウス、生化学・細胞生物学的手法を駆使し、腎機能を障害する神経ペプチドの同定とそのシグナル伝達機構を解明。Nav1.8選択的阻害薬VX-548のCKD治療薬としての可能性を探り、ドラッグリポジショニングを目指す。CKD診療に新たな治療選択肢をもたらす。	2027年12月頃
	27	竹村 晶子	藤田医科大学 医学部発生学講座 講師	神経化学、神経科学、解剖学、神経内分泌学	出生直後に起こる一過性の甲状腺ホルモン変動が脳の発達に与える影響の解明	母体の甲状腺ホルモン機能が子の脳発達をどう制御するか解明する。マウスモデルを用い、出生直後の仔のホルモンサージが甲状腺ホルモン分泌調節機能の発達に果たす役割、および母親のホルモンレベルが仔のサージ・分泌調節機能・認知機能に与える影響を分子・細胞レベルで解析。母体と胎児間のホルモンコミュニケーションが仔の発達に与える影響を明らかにすることで、子の認知機能低下予防に向けた新たなアプローチを提示する。	4年
	28	前田 圭介	藤田医科大学 医療科学部臨床教育連携ユニット 生体機能解析学分野 講師	神経生理学、小児神経学	てんかん性脳症患者のてんかん発作再発リスク予測指標の開発	高周波振動（HFO）の出現とてんかん発作再発リスクとの関連を解明し、予測指標の開発を目指す。縦断的調査でHFO出現と発作再発の因果関係を明らかにし、脳波と光トポグラフィの同時記録で脳血流変化とHFO出現変化を捉え、時間的類似性を検証。これにより、簡便なHFO自動検出を臨床導入し、治療評価の客観化と患者QOL向上への貢献が期待される。	2年
	29	大野 祐	愛知学院大学 歯学部歯周病学講座 講師	医学	LRG1に着目した歯周病と炎症性腸疾患の関連性を示す基礎的研究	LRG1が歯周炎と潰瘍性大腸炎の病態形成に与える影響を解明する。実験的歯周炎モデルマウスと歯肉上皮細胞を用いて、歯周組織局所におけるLRG1の役割を解析。潰瘍性大腸炎モデルマウスで歯周炎が潰瘍性大腸炎に及ぼす影響を検討し、炎症性サイトカイン刺激やLRG1刺激による細胞応答変化を評価する。歯周病と全身疾患のメカニズム解明、新規治療薬開発、その結果健康寿命延伸と医療費削減への貢献が期待される。	2027年度
経済・経営・法学	30	藤田 真哉	名古屋大学大学院 経済学研究科 教授	制度経済学, 政治経済学	労働市場の制度的補完性が構造変化に与える効果の実証的研究	労働市場の諸制度が産業構造変化、ひいては経済成長にどう寄与するかを実証的に解明する。OECD諸国の労働生産性データを分析し、労働者の産業間移動が経済成長に与える効果を労働市場の制度変数に回帰させ、「制度的補完性」を考慮した制度クラスターが構造変化要因に与える影響を分析する。成長産業への労働移動を円滑化し、持続的な経済成長を促す労働市場制度設計の指針を提示することを目指す。	2026年度
	31	佐藤 圭介	名古屋大学大学院 法学研究科 大学院後期課程	行政法学	「アメリカにおけるQui Tam訴訟の史的研究―民主主義的統治性の危機におけるその再生」	アメリカのqui tam訴訟の歴史的展開を辿り、行政活動への新たなコントロール手法を構想します。議会資料や判決などの一次資料を分析し、社会的背景や議員の思考がqui tam規定の立法・改廃に与えた影響を解明。制度の意義と性質を明らかにし、日本における類似制度導入検討時の多角的評価に役立つことを目指します。	2027年12月
	32	巽 一樹	中京大学 国際学部国際学科 講師	マクロ経済学	少子高齢社会における公的年金政策及び高齢者雇用政策に関する理論的研究	高齢者雇用政策が経済成長、人口動態、年金制度の維持可能性に及ぼす効果を分析する。高齢者と若年者労働の代替・補完関係を明示する経済成長モデルを構築し、長寿化が高齢者雇用政策下での経済成長や所得格差に与える影響を検証。日本や欧州のデータを用いた数値シミュレーションで、最適な年金政策や高齢者雇用促進策を提言し、少子高齢社会における持続可能な経済成長に貢献する。	2027年12月
	33	宮崎 浩伸	南山大学 経済学部経済学科 教授	企業金融	金融システムが経済成長に与える影響に関する実証分析	戦後の金融システム変遷と金融産業の発展を背景に、企業の資金調達への影響を実証的に解明する。財務省「法人企業統計調査」を用い、産業別・企業規模別の付加価値額と金融機関借入金・資本金の関係を分位点回帰で分析。企業の資金調達や銀行・証券市場育成に関する産業政策に資する情報を提供することを目指す。	2026年
	34	伊藤 彰敏	南山大学 経営学部経営学科 教授	コーポレートファイナンス	ベンチャーキャピタル・ネットワークにおけるコミュニティ構造とスタートアップ育成	VCネットワークのコミュニティ構造とその形成要因を分析し、コミュニティ内の情報共有・協業がスタートアップ投資規模、分野、イノベーション成果に与える影響を明らかにする。「スピーダ・スタートアップ情報」からデータを収集し、ネットワーク分析でVCコミュニティを検出。コミュニティと投資先企業の成長性・イノベーション成果との関連を分析し、規制変更による影響も検証することで、VCコミュニティの役割を解明する。	2027年3月
	35	水野 有香	愛知大学 経済学部経済学科 教授	社会政策	社会政策から考える生きづらさを抱える若者の社会的包摂 ：日本と韓国の行政窓口と社会的企業の取り組みから	生きづらさを抱える若者の社会的包摂を目指し、社会福祉と労働分野に跨る社会政策スキームと官民連携のモデルを構築する。日本と韓国の行政窓口・社会的企業への聞き取り調査を通じ、伴走型支援の実態を多角的に把握。先進事例を参考に、効果的な連携と政策スキームをモデル化し、日本の若者支援に具体的な方向性を示す。	2027年12月
	36	齋藤 毅	愛知大学 経営学部会計ファイナンス学科 教授	金融工学, 観光	外国為替連動クーポンを利用した外国人観光客誘致策 外国人観光客のオーバーツーリズム対策	訪日外国人のさらなる誘致と訪問先の地域間平準化を目指し、数学モデルを構築する。外客誘致には為替デリバティブを応用した確率微分方程式モデルを拡張し、誘致効果を最大化。訪問先平準化のため、SNS口コミや人流データを分析し、ネットワーク理論を用いて訪日客の行動をモデル化する。オーバーツーリズム問題を低減できる方策のプロトタイプを得ることを期待する。	3～5年

【 研究助成 】

部門	No	氏名	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマ	研究テーマの概略・手段・目的等	成果をおさめる時期
経済・法学・経営・	37	大野 友也	愛知大学 法学部法学科 教授	憲法学	アメリカにおける移民法・移民政策の分析	複雑で揺れ動く米国移民法・政策の全貌解明を目指し、特に21世紀以降の改定史と政策のあり方を整理・分析する。学術文献、判決、法律、大統領令を内容分析し、さらに移民訴訟弁護士へのヒアリングを通じて政策変更が移民に与えた影響を検証。体系的な理解のための基礎資料を提供し、望ましい移民政策のあり方を提言する。	2026年度
芸術	38	金 慧仁	愛知県立芸術大学 美術研究科美術専攻陶磁研究分野 博士後期課程3年	美術(陶磁)	朝鮮時代の明器における象徴性と文化的意義:東アジア葬礼文化との比較を通じた陶磁器デザインの提案	祭礼文化の「人を想う心」を現代的に再解釈し、陶磁器デザインで視覚化することで、精神的な慰めと文化的な価値を伝える。中国の「禮器」・「明器」と日本の仏具の関係を歴史的に考察し、東アジアの明器と祭礼文化を比較研究する。その本質を現代生活に適用可能な新しい形の追慕道具として制作し、現代社会の祭礼文化の再認識を促すことを目指す。	2027年4月
	39	澤岡 織里部	愛知県立芸術大学 美術学部 博士後期課程2年	文化財保存科学	古伊万里陶磁器釉の釉層解析による再現と創作 -初期伊万里釉の魅力の、微細構造に基づく光学的特性としての把握と、その形成要因の分析・再現、および再現釉を用いた現代陶芸作品への展開-	初期伊万里釉の光学的・構造的魅力を解明し、現代の原料と焼成条件で再現することを目指す。釉薬組成分析、代表組成選定、焼成実験、釉層構造観察を通じて、その美的特性の要因を明らかにする。日本の磁器釉の材料科学的理解を深め、伝統技術の現代陶芸応用、そして文化財理解への新たな基盤を築く。	2025年度
	40	東谷 護	愛知県立芸術大学 音楽学部作曲専攻音楽学コース 教授	音楽学	音楽表現系学生に対する論文指導モデルの構築と教材開発	音楽表現系の学生(作曲・演奏実技)が学術論文を執筆できるよう、効果的な指導モデルと教材を開発する。国内・海外の音楽大学博士論文を分析し、「研究テーマ設定」「論理展開」「表記表現」に特化した書籍出版レベルの教材構築を目指す。学生だけでなく指導教員にとっても有益なガイドとなり、より質の高い論文が発表されることに貢献すると期待できる。	2027年12月
	41	藤田 果玲	愛知県立芸術大学大学院 音楽研究科声楽分野 博士後期課程1年	音楽(声楽)	現代音楽における特殊唱法のための記譜法 -発声および響きからの追究-	特殊唱法の発声と響きに着目し、歌手が直感的に理解しやすい記譜法を追求する。シェーンベルク以降の声楽曲の記譜法を網羅的に分析し、アンケートと作曲家との意見交換を通じて、適切な記譜法を提唱。作曲家と歌手間の円滑なリハーサルをサポートし、現代音楽の普及を促す。	2028年度
	42	八嶋 有司	愛知県立芸術大学 美術学部デザイン・工芸学科 メディア映像専攻 准教授	映像・メディア表現	映像メディア表現の中・高等教育における教育方法の実践記録並びに初等教育及び生涯学習への技術的応用と新たな映像教材の開発	子供から若年層対象の映像教育プログラムと教材・教具を開発する。既存の映像活用法と異なり、「映像教育方法の開発と実践」を主題とし、スポーツや音楽など他分野の教育方法を映像分野に応用する実験的アプローチをする。国内外の教育実践調査、映像作家へのヒアリングを通じて、基礎的なトレーニングやエクササイズとなるプログラムを設計。日本の映像教育の歴史アーカイブを構築し、現代社会に適合した新たな映像文化と技術の発展に貢献することを目指す。	2028年度

【 海外派遣助成 】

部門	No	氏名	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマ	研究テーマの概略・手段・目的等	成果をおさめる時期	
工 学	43	鈴木 理恵	名古屋大学大学院 工学研究科機械システム工学専攻 大学院生	生体工学, バイオメカニクス	圧縮培養時のFRET型張力センサ発現マウス初期胚を用いた細胞内張力変化計測 (Evaluation of intracellular tension changes using mouse early embryos expressing FRET-based actinin tension sensor during compressive culture)	FRET型張力センサを用いて初期胚の細胞内張力変化を評価し、子宮内での力学刺激の役割を解明。胚培養環境の改善を通じた不妊治療への応用に貢献する。第13回 Asian-Pacific Conference on Biomechanics (Auckland, NZ) にて本研究成果を発表し、発生バイオメカニクス分野の国内外の研究者と積極的に意見交換を行う。	ニュージーランド	2025年11月17日 ～ 11月22日
	44	AGAO-AGAO ARGEENA AGREGADO	名古屋工業大学大学院 工学研究科工学専攻 博士後期課程2年	磁性流体	熱エネルギー貯蔵用磁性流体の相転移挙動における熱磁気効果	磁性流体の熱磁気効果に着目し、外部磁場による融解・凝固挙動の制御を通じて熱エネルギー貯蔵(TES)システムの強化を目指す。コールドチェーンや再生可能エネルギーなどへの高度な熱管理技術に貢献することが期待される。オーストリア・ウィーンのウィーン大学で開催される第17回磁性流体国際会議で研究発表を行い、国際的な研究者と意見交換をおこなう。	オーストリア	2026年7月6日～ 7月10日
	45	Niraula Madan	名古屋工業大学大学院 工学研究科工学専攻 電気電子プログラム 教授	電子デバイス工学	高性能大面積ペロブスカイト半導体放射線検出デバイスの開発	低温・非真空プロセスで製造可能なペロブスカイト半導体検出器を開発する。常温動作で高感度・高分解能・大面積を実現し、医療や検査分野の検出器高性能化と低コスト化を目指す。国際会議 Nuclear Science Symposium, Medical Imaging Conference, and Room Temperature Semiconductor Detectors Symposium (IEEE-2026 NSS-MIC-RTSD Symposium) でペロブスカイト半導体結晶成長と検出器作製に関する研究発表を行うと共に、関連分野の最新研究動向に関する情報収集および意見交換を行う。	スペイン	2026年10月30日 ～11月6日
	46	高山 優斗	愛知工業大学大学院 工学研究科 大学院生	マイクロメカトロニクス、電気工学	圧電素子と電磁石を応用したマイクロアクチュエータに関する研究開発	圧電素子の変形と電磁石による位置保持を組み合わせたマイクロメカトロニクス技術で、精密位置決めを実現する。摩擦の影響を排除するため、空気膜による非接触状態を形成。電力で磁力を制御できる永電磁石も活用し、高精度な位置決めを可能にする。国際会議11th International Conference of Asian Society for Precision Engineering and Nanotechnology (ASPEN 2025)で、研究成果の発表を行い、マイクロメカトロニクスと精密工学に関する情報収集および意見交換を行う。	台湾	2025年11月24日 ～11月29日
	47	巽 信彦	愛知工業大学 工学部建築学科 講師	建築構造	横座屈補剛材としての性能の観点から見た鉄骨小梁端部における接合部ディテールの合理的な設計法の構築	鋼構造小梁の端部接合部が骨組全体に与える影響を解明し、構造実験と数値解析を通じ、長期荷重支持と地震時の横座屈補剛という小梁の二つの役割を両立させる合理的な設計法を構築。国際会議「ISSS-PSSC2025(The 13th International Symposium on Steel Structures & The 14th Pacific Steel Structures Conference)」で鉄骨小梁端部の接合部ディテールが横座屈補剛材性能に与える影響を発表し、国内外の研究者との意見交換を通じて、実務設計上の扱いの違いに関する貴重な情報を収集する。	韓国	2025年11月19日 ～11月22日
	48	齋藤 巧夢	名城大学大学院 理工学研究科材料機能工学専攻 大学院生	電子工学	AlGaIn系紫外線レーザーに関する結晶成長技術およびそのデバイスプロセスに関する研究	革新的な「分極ドーピング」技術を用いてAlGaIn系紫外半導体レーザーの高効率動作を実現する。キャリア注入効率への影響を解明し、光損失を最小化する設計指針を構築。殺菌や医療など多様な分野への次世代光源デバイスの実用化。CIMTEC 2026 - 第16回現代材料および技術に関する国際会議に参加し、研究発表を行い、会議終了後、スウェーデンのチャルマース工科大学にて、フォトニック結晶の作製と評価に関する共同研究をおこなう。	イタリア スウェーデン	2026年6月21日～ 25日 2026年6月26日～ 7月10日
	49	村瀬 勇介	名城大学 理工学部数学科 教授	数学・非線形解析・現象数理	多孔質媒体における水分輸送過程を記述する数理モデルの数値計算と解析	特異拡散を含む偏微分方程式を用いたマルチスケール数理モデルの数値計算スキームを構築。コンクリート等の多孔質媒体における水分吸着・輸送過程の再現性を検証し、数値的安定性や誤差解析を行うことで、水分輸送過程の解析とコントロールが可能になることが期待される。国際会議 The 15th AIMS Conferenceで研究発表を行い、水分輸送過程モデルとその関連モデルの最新の研究動向や、適用できる抽象理論についての情報収集および意見交換を行う。	ギリシャ	2026年6月5日～ 6月12日
	50	中島 江梨香	中部大学 工学部応用化学学科 講師	難燃材料	燃焼炎画像解析による高分子材料の熱分解および劣化の解明とデータ駆動型難燃材料開発	光学画像解析とデータベース構築で、高分子材料の燃焼状態・劣化を数値評価する。これにより、環境規制下の難燃材料をシステムティックに設計開発し、資源循環も考慮した持続可能な難燃材料の開発に貢献することを目指す。国際会議12th conference of the Modification, Degradation, Stabilization of Polymers Societyで研究発表を行い、研究および企業の最新情報を収集し、意見交換を行う。	フランス	10日間
	51	長谷川 勝	中部大学 理工学部宇宙航空学科 教授	モータドライブ, 制御工学, パワーエレクトロニクス	・希土類磁石に頼らない環境保全型モータの高性能制御システムの開発 ・高速トルク制御を可能とするモータの新制御理論の創出 ・航空機, 自動車分野に適用可能な多重多相モータの高信頼性制御の開発	高性能永久磁石に依存しないモーターの制御アルゴリズムを開発する。顕著な電気磁気学的非線形性の影響を受けにくい制御モデルを創出し、高効率運転を実現する駆動条件と実現方法を提案する。米国国際会議IEEE主催の国際会議IFEEC (International Future Energy Electronics Conference) 2025で研究発表を行ない本技術の評価を受けるとともに関連技術の情報収集および将来技術について意見交換を行う。	インドネシア パリ	2025年11月18～ 11月22日
	52	伊藤 正英	愛知県立大学 情報科学部情報科学科 准教授	ロボット制御	RoboCupサッカー小型リーグロボットによる新たな押しどりブル実現 —高速なバックスピンかけを用いない押しどりブル法	RoboCupサッカー小型リーグにおいて、高速バックスピンを用いない新たな押しどりブル手法を開発します。これにより、従来の高コストなハードウェア設計を不要にし、ロボットタスク技術の深化と日常社会の高度化に貢献する。RoboCup 2026韓国大会に参加し、サッカー小型リーグで研究成果を実証評価。技術論文発表と意見交換を通じて最新研究情報を収集する。	韓国	2026年6月30日～ 7月6日
医 学	53	永島吉孝	名古屋大学 医学部附属病院脳神経外科 病院助教	脳神経外科学、臨床医学	脊髄髄内腫瘍の分子病態の解明と診断・治療戦略の構築	脊髄髄内腫瘍に対しDNAメチル化プロファイルを用いた分子レベルのアプローチで、診断・治療体系を構築し、診断精度と治療成績の向上を目的とする。米国ロサンゼルスで開催される2025 CNS Annual Meetingにおいて発表し、世界の専門家との活発な討論を通じて、脊髄髄内腫瘍の統合的診断・治療戦略構築のための最新情報収集、意見交換および国際共同研究の機会を探る。	アメリカ	2025年10月10日 ～ 10月16日
	54	永井 隆	名古屋市立大学大学院 医学研究科腎・泌尿器科学分野 病院助教	泌尿器科学、腫瘍学、医工学	金属有機構造体を用いたナノ粒子による進行性前立腺癌への新規治療法開発	MOFナノ粒子に抗癌剤と酸化鉄を組み込み、前立腺癌特異的抗体で標的化。交流磁場による温熱療法でMOFを崩壊させ、薬剤を局所放出。副作用を抑えつつ高い治療効果を発揮する、進行性前立腺癌の複合治療を目指す。国際会議 the American Urological Association's Annual Meetingで研究発表を行い、前立腺癌の新規治療法や泌尿器科癌における新規治療法のアイデア、医工連携の取り組みに関して情報収集および意見交換を行う。	アメリカ	2026年5月15日～ 5月18日

【 海外派遣助成 】

部門	No	氏名	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマ	研究テーマの概略・手段・目的等	成果をおさめる時期	
経済・経営・法学	55	濱田 敦也	中京大学 経営学部経営学科 講師	経営学、中小企業論	スキルの継承・形成プロセスに地域性が与える影響の 解明	中小企業の事業承継におけるスキル継承・形成プロセスに焦点を当て、特にノウハウ不足の企業のため、海外企業へのインタビュー調査を通じて、地域特有の文化や制度がスキル継承に与える影響を明らかにし、円滑化に必要な要素を特定する。	中国、タイ、ベトナム	2026年度中 2回予定
	56	神野 真敏	南山大学 経済学部経済学科 教授	経済学	Brexit後英国経済シミュレーションから導く日本の外国人労働者戦略	エージェントベース・モデル（ABM）を用いて英国のBrexit後経済を分析し、外国人労働者の誘致・定着策に関する知見を日本へ適用することを目的に、労働移動規制や貿易再編が中小企業・地方経済に与えた影響をABMで再現。その結果を基に、日本が外国人労働者にとって魅力的な就労先となるための制度設計と政策パッケージを定量的に検証する。海外サバティカルにおいて、ONS、UK Data Serviceを入手し、データ分析およびABMによるモデル構築を行う。その上で、サバティカル先の大学にて研究発表を行う。	イギリス	2026年9月～ 2027年8月
	57	加藤 洋平	愛知大学 法学部法学科 准教授	行政学、地方自治論	大都市自治体の人事制度に関する日本と中国の比較研究：職員の採用と働き方を中心として	日本と中国の大都市自治体の人事制度と職員の働き方を比較分析。職員採用難や働き方改革の課題解決へ向け、両国の事例から望ましい制度や仕組みを提言することを目指す。国際シンポジウム「日中大都市ガバナンスの制度と実践」に参加して、大都市自治体の人事制度、職員の働き方について研究発表を行う。中国の地方政府の職員採用、働き方についても情報収集を行う。	中国	2026年6月 もしくは7月
芸術	58	村尾 里奈	愛知県立芸術大学 美術学部 准教授	彫刻 (空間表現、金属による彫刻)	パルテノン神殿とアテナ神立像のスケールと空間性の研究― 彫刻教育における古美術研究への展開―	ナッシュビルのパルテノン神殿レプリカを調査し、神殿内部の光の取り入れ方やアテナ像の見られ方を考察する。これを日本の仏像と寺院空間と比較し、類似点・相違点を明らかにする。さらに、日本国内の類似建築も分析し、得られた知見を彫刻教育に還元し、学外授業で学生の想像力を喚起する学外授業を行う。	アメリカ	2025年11月

【 研究プロジェクト助成 】

部門	No	氏名	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマ	研究テーマの概略・手段・目的等	成果をおさめる時期
研究プロジェクト助成	59	愛知県立愛知総合工科高等学校 専攻科	責任教員 勝野 歳康	工学	赤外線ライダーを用い 車両・機体周辺の空間認識並びに自位置検出による自動運転システム開発	自動運転やロボットに不可欠な3次元ライダーは高価で大型という課題がある。本研究では、低コストな2次元ライダーの動きを高速演算することで、空間認識可能な安価な3次元センサーを開発し、システムの普及を目指す。	2027年8月
	60	愛知県立瀬戸工科高等学校 専攻科	責任教員 森下 眞行	工学／芸術の学際領域	パテントコンテストを活用した知的財産教育プログラムの開発と整備・充実化に関する研究プロジェクト	高校生がパテント/デザインパテントコンテストに参加する教育的意義として、STEAM教育推進や起業家精神育成、社会課題解決への関心の高まりを背景に、知的財産教育、創造力育成、実社会との接点提供、学校評価向上、生徒の自信向上といった効果を目的とする。	2027年度
	61	豊田工業高等専門学校専攻科	責任教員 杉浦 藤虎	工学	教育に特化した超小型サッカーロボットの製作・組立テキストの作成と出張授業の実践	ロボカップ小型リーグに用いられる高価なサッカーロボットに代わる、低コストで製作可能なロボットを新規に開発し、実演をより手軽に行える、実演と教育向けに特化したシステムの構築を目指す。そして、 ロボットを教材として活用するための製作手順を記したテキストの作成と出張授業の実施を目的とする。	本プロジェクトで作成したテキストを利用して他大学・他機関等においてロボット基礎教育に利用され、普及できたとき。
	62	豊田工業高等専門学校本科	責任教員 光本 真一	電気工学	ポリエチレン中の空間電荷形成に及ぼす密度の影響に関する基礎研究	電気絶縁用ポリエチレンへの自然放射線照射が電気特性に与える微細な影響を解明する。密度が異なる低密度ポリエチレンに対し、電流積分電荷法を用いて電流値と空間電荷特性を詳細に調査し、これまで困難だった極微小な変化を明らかにする。	2026年度末